

会 議 要 旨 書

会議名	令和5年度第2回三鷹市文化財保護審議会定例会
日時	令和5年7月10日(月)午後6時30分～8時
場所	三鷹市教育センター2階 第二中研修室
出席委員 (8人)	中野達哉、濱野周泰、小林謙一、福野明子、神野善治、初田香成、 M・ウィリアム スティール、日高慎
欠席委員 (0人)	
事務局 (4人)	スポーツと文化部長 大朝摂子、スポーツと文化部調整担当部長・生涯学習課 長 齊藤真、生涯学習課主査 下原裕司、生涯学習課主事 齊藤満里奈
会 議 の 公 開 ・ 非公開	公開
傍聴人数	0人

1 開会

事務局より、「三鷹市市民会議、審議会等の会議の公開に関する条例」に基づき会議の公開、会議録の作成、公開についての説明及び配付資料の確認を行った。

2 議題

(1) 4月以降の文化財事業報告について

事務局から令和5年4月以降実施した事業について主要なものを報告した。

【A委員】ほたるについて、ICU となにか連携はあるのか。ICU でもほたるに関して団体が活動している。

【事務局】ICU とのほたるに関する連携は、現在は行っていない。

【B委員】崖線の水源の状況について伺いたい。野川湧水では対策がなされていないのではないかと、例えば地面に水浸透するような道路上の施設等、東京都を含めて対策を考えなくてはならないのではと感じた。

【事務局】古民家の東側の自生わさびが残っている場所は、湧水はここ数年ではそこまで変化はない。古民家側は従前どおり地下水のポンプアップによる供給である。一時期渇水のため井戸が枯れていたが、現在は戻りつつある。培養苗を植えているのはさらに東側のわさび田で、ここはこの近辺では最も水量が多い。いずれも昭和40年代以前とは比較にならないほど減少したうえでの状況であるが、生育状態についてはしばらく様子を見たい。

また、三鷹市の市道では、道路に雨水浸透枳を埋設する対策を20年前から行っている。湧水量はゆっくり回復の兆しがあると、地元の方は感じておられるようだ。湧水増加はこの対策による効果によるものではないかと考えている。引き続き観察を続けたい。

(2) 7月以降の文化財事業予定について

事務局から7月以降の事業予定について報告した。

【B委員】大沢の里水車経営農家の民具講座について、1年目は日曜日の昼間に実施し、

大沢の里水車経営農家を会場とし、定員 15 人と設定し定員を超える申し込みがあった。2 年目は会場を教育センターに変え、定員を 30 人に増やして平日夜間に実施し、幅広い層の参加があった。3 年目も基本的に平日夜間に行うが、対談形式の際は公開講座として、連続講座以外の方も参加できるようにする。そのうち 1 日を土曜日の昼過ぎに開催する。また、この 2 年間、講座の際に水車市民解説員への呼びかけを行っていたが登録に及ばず、3 年目は事務局の要望から水車市民解説員への登録をより強く呼びかけることとなった。

【C 委員】みたかえる体験学習『古墳時代人になる！』の参加対象を伺いたい。子ども向けの事業がコロナ以降少なくなったように感じる。

【事務局】子どもも大人も楽しめる内容にしている。なお、昨年度は小学校全校へ周知したところ、多くの子どもたちが参加してくれた。

(3) 牟礼橋庚申塔の調査結果概要について

事務局から、牟礼橋庚申塔の調査結果概要について報告した。

【事務局】今後、指定または登録についての検討、指定・登録の場合はその理由について特別部会にて検討していきたい。

【C 委員】特別部会を設置することについて、よろしいでしょうか。

(委員 同意)

【C 委員】よろしくお願いいたします。

市内庚申塔について、すでに指定・登録されているものはあるのか。もしあるのなら、指定か登録か、今回の牟礼橋庚申塔と、他の庚申塔との、文化財としての扱いに違いはないか、あるならなにか？整理しておかなければいけない。

また、今回なぜこの庚申塔を指定・登録するのかについてもきちんと説明する必要があるだろう。

【事務局】市内庚申塔の指定・登録について確認する。

(4) 「三鷹まるごと博物館」事業あり方検討助言者会議について（報告）

【齊藤調整担当部長】令和 5 年 5 月 19 日に第 1 回「三鷹まるごと博物館」事業あり方検討助言者会議を行った。

助言者会議では、市の文化財として、自然・科学的な要素をもっと取り入れてもいい、といったご意見、また、地域振興という観点から、例えば三鷹の原風景などを効果的な PR により取り上げ、活性化を図るという、地域文化財活用の連携や効果の可視化、さらに、まるごと博物館の運営には生涯学習課だけではなくて、関係部署、関係団体などとの連携が必要であるといったご意見をいただいている。

次回以降は審議会から昨年 6 月にいただいた 7 つの提言を踏まえ、少し焦点を絞った形でより具体的な議論ができればと考えている。

【A 委員】初回はまずブレインストーミングで多様な意見がでた。今後 ICU とも連携していけたらと個人的に考えている。

【C 委員】次年度予算計上時期（10 月頃）に向けての検討なのか。

【大朝部長】中・長期的な内容の検討も行いながら、次年度に向けた検討をまず行っているところである。令和 6 年度に向けた具体的な内容については 10 月まで

に検討する。

(5) 大沢の里水車経営農家 母屋耐震補強工事について

事務局から、工事の概要について報告した。

【B委員】母屋は文化年間に創設されたと伝承されているが、この機会にどこかでその確証を得られないか。

【D委員】建築から細かな年代を確定させるのは難しいだろう。

【E委員】ジャッキアップした際、土台部分などに使用されている木材の年輪で判明する可能性がある。近年は画質の良い写真でも判定可能な技術がある。

【B委員】床板を外したら囲炉裏が2つでてきた。天井の構造もそれに合わせてなにか造作されている可能性はあるか。

【事務局】いずれも工事の中で対応できるか、設計及び施工者に確認する。
また、母屋工事の後には、敷地内の雨水排水工事を予定している。

3 その他

【事務局】東京都文化財担当職員より、大沢の里古民家と及び、天文台構内古墳の視察があった。

次回定例会は令和5年11月20日（月）午後6時半からとする。

【C委員】以上をもって、令和5年度第2回三鷹市文化財保護審議会定例会を終了する。